

摂食嚥下障害リハビリテーション治療学演習

[演習] 第1・2学年 後期 選択 2単位

《担当者名》○永見慎輔 nagami@hoku-iryo-u.ac.jp 鈴木瑞恵 飯泉智子

【概要】

摂食嚥下障害のリハビリテーションを実施するための検査法、検査解析法、治療法を実践するための実技的方法を学ぶ。

【学修目標】

一般目標：摂食嚥下障害への実践的な対応について学ぶ。

行動目標：

1. 摂食嚥下障害のスクリーニング検査法を行える。
2. 摂食嚥下障害の専門的検査法（嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査）の解析を行える。
3. 摂食嚥下障害の治療法を行える。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	演習の概要、スケジュール、演習方法について説明する。	永見慎輔 鈴木瑞恵 飯泉智子
2・3	スクリーニング検査法	種々のスクリーニング検査の演習を行い、特論で学んだ感度と特異度をふまえ評価を行う。	永見慎輔 鈴木瑞恵 飯泉智子
4～14	嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査	摂食嚥下障害を有する症例の嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を見学し、その映像を解析する。解析結果から介入法を立案しレポートを提出し、プレゼンテーションを行う。	永見慎輔 鈴木瑞恵 飯泉智子
15	まとめ	提出されたレポートに関するディスカッションを行う。	永見慎輔 鈴木瑞恵 飯泉智子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による。

【評価方法】

レポートおよびプレゼンテーション 80%、ディスカッション 20%

【教科書】

指定しない。

【参考書】

才藤栄一、植田耕一郎 監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版 医歯薬出版、2016

【学修の準備】

1. 関連する文献、参考書を読み予習しておくこと（80分）。
2. 配布プリント、参考書で復習し理解を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

永見慎輔、鈴木瑞恵、飯泉智子（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

永見慎輔、鈴木瑞恵、飯泉智子：医療機関における臨床業務経験および大学における教育・研究経験をもとに講義を行う。